

長 生



平成27年 9 月 号

目 次

会長の言葉	日本長生医学会会長 柴田政宏	
宗 教 編		
法 話	得勝寺 本莊一治	1
医 学 編		
診療日誌雑感	長生学園 東洋医学臨床論 講師 土肥治療院 土肥康子	3
随 想 編		
開業当時の想いで	神奈川県 程野保夫	6
長生道に生かされて	北関東支部 登坂博史	8
座長の独り言 (2ndステージ担当)	日本長生医学会北海道連合会 副会長 上田義博	12
長生知恵袋		14
報 告		
中央支部 7月定例研究会		15
訂 正		15
計 報		15
案 内		
第90回 医学会・報恩講		16
学園便り		18

日 本 長 生 医 学 会

会長の言葉

総本山長生寺管長
日本長生医学会会長 柴田政宏

例年のない夏の猛暑は、甲子園で情熱を燃やす球児達の一途な姿に、感動を覚えながら、乗り切る事が出来たような思いでした。長生学園も9月より後期の授業が始まり、学年毎に勉強に向けて猛ダッシュが始まりました。

教育に当たる我々も、日々心して指導に当たっているつもりですが、時としてハッとするような事態が起こり、教育の難しさを知らされる事もあります。

「邪気を祓う事で患者さんの体調を改善させる」とプラーナについて説明されている方がいらっしゃるの聞きましたが、長生の三本柱の一つであるプラーナは、決して邪気を祓うなどと長生では教えていません。

「プラーナとは生命の源をなすものであり、生命のあるものは皆このプラーナを有し、生理的作用及び、心理的作用までもこのプラーナによって、行われています。従って私達治療師は、患者さんにプラーナを補い健康に導く事が出来るのです。」

(新長生医学P30参照)。

長生上人は、常に「自己反省」が重要であると教え導いておられます。

毎日の治療三昧の生活の中では、ついつい慢心が生まれて参ります。私共凡夫は煩惱から解き放たれる事は難しく、患者さんに対してついつい治してやった、治療はこの方法が一番だ、私以上の治療家はいない、などという思い上がりの心に支配されてしまうのです。

このような思いが起こると言う事は、私共は凡夫である以上逃れ難い事なので、今日一日患者さんに対して最善の治療が行えたか、自問自答し、反省しなければなりません。

車で一直線の道を走っていても、常にハンドル操作に修正を加えなければ、道から外れていってしまいます。このような修正を自分自身に行う事が、自己反省なのです。

「我が身は罪深き浅ましき者」

この事を忘れず、如来様が八万四千の光明を放って、我らの身体からでる煩惱を消滅ぼしてお救い頂いております。そのためにも「自己反省」を行う事が大切なのです。

合掌